

sMedio REPORT

Vol. 11

第15期 株主通信

2021.1.1 → 2021.12.31

ごあいさつ

皆様には、平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「デジタルトランスフォーメーションを加速する。(ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる)」をミッションに掲げ、社業の発展に邁進しております。

2021年12月期の業績は、売上高 722百万円、営業利益 6百万円、経常利益 12百万円、最終利益 1百万円となり、2期連続の黒字を達成いたしました。

2022年12月期は、「パソコン・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業」と「建設DXサービス事業」を成長事業に据え、下記の事業見通しと事業方針の下、事業を行ってまいります。

「パソコン・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業」では、複数のライセンス製品提供が決まる等、ライセンス案件の新規獲得が継続している今だからこそ、将来を見据えて、デバイス間データ転送分野を新たな成長領域と捉え、新しい技術・製品の開発・導入、そして、顧客獲得を目指してまいります。

「建設DXサービス事業」では、AI画像解析、機械学習およびセンサーデータを活用し、建設現場の課題解決策をDXツール化した月額課金サービスの開発・提供を継続し、積極的な営業活動により、案件獲得を加速してまいります。

2022年12月期は両事業を当社の軸として推進し、3期連続の黒字達成と将来に向けた安定したライセンス・サービス収入基盤の構築に邁進してまいります。

今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 岩本 定則

社会に貢献できる豊かなマルチメディアライフを目指して

当社は、スピーディーに (Speed)、世界市場に向けて (Sphere)、ソフトウェア (Software) 製品とサービスを提供するソフトウェア開発、サービス提供会社です。

当社は2007年の設立以来、マルチメディア、無線接続技術関連ソフトウェアの開発力で高い評価を獲得しています。

近年、当社は「デジタルトランスフォーメーションの加速」をミッションとして掲げ、AI(人工知能)による映像解析、IoTプラットフォーム製品、セキュリティ関連技術に事業分野を広げ、ソフトウェアによる新たな価値の創造に取り組んでいます。

sMedio
の強み

① Media
処理技術

② 無線通信
技術

③ 著作権保護/
認証技術

④ AIによる
映像解析

新製品を開発・製品化するための全ての要素技術を習得しており、マルチOS・マルチデバイスに対応できることが当社の強みでもあり、他社にマネのできない先端的な製品開発の源泉となっています。

無線接続技術関連製品を使うとこのようなことが可能になります。

sMedioが目指すもの

技術開発力

明日をもっとコネクティブに。

インターネット化する社会。
その進化を、技術力と
グローバルな展開力で加速する。

新しい魅力

お客様のために、というミッション。

そのデバイスに先進の機能を、新しい魅力を。
お客様のバリューを高める、
それが私たちのバリュー。

世界へ

アジアから世界へ。

人材や技術というリソースを、
国境を越えて結集し、革新的なソフトウェアを、
いち早く世界へ。

このような技術の保有という強みを持っていることで無線接続技術関連製品を幅広く提供することが可能となりました。様々なシーンで当社技術や製品が使われています。

外出先
リモート
アクセス

リビング
ピアツーピア
ネットワーク

寝室
ホーム
ネットワーク

当社グループについて

当社グループをもっと知っていただくために、株主の皆様の疑問にお答えします。

2021年度は2期連続の黒字化を達成し、2022年度は「デジタル・トランスフォーメーション」の推進施策に、より一層取り組んでまいります。



「建設DXサービス事業」の今後の見通しを教えてください。

A. 当社は建設現場における課題を解決するソリューション提供に注力しており、現在、当社が提供するDXサービスは、「動体認識AI解析サービス」「切羽AI評価システムサービス」「トンネル覆工コンクリートAI評価システムサービス」の3つ(2022年2月末時点)に増えました。

累計5社(2022年2月末時点)となっている、当社サービスの採用企業数を2022年12月末までには10社、2023年12月までには15社に増やす目標を立て、建設会社に順次、当社サービスの紹介を行っております。

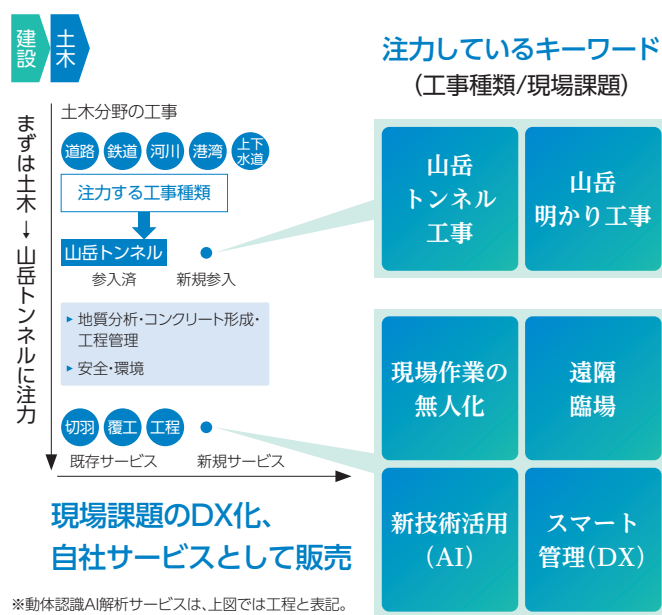
当社サービスの紹介と並行し、当社サービスの知名度、信用度を上げることが出来るNETIS(国土交通省の新技术情報提供システム)登録を2022年の出来る限り早い時期に完了させ、建設会社が工事案件入札時に当社サービスを利用しやすいようにし、当社サービスの採用企業数と採用トンネル数を増やしてまいります。

また、サービス数を増やすための開発も継続してまいります。

▶ 各サービスの詳細は、下記URLを参照ください。

<https://www.smedio.co.jp/product/smedio-ai-technologies-for-construction.html>

建設DXサービス事業の展開



2022年度のロイヤリティ収入の見通しを教えてください。

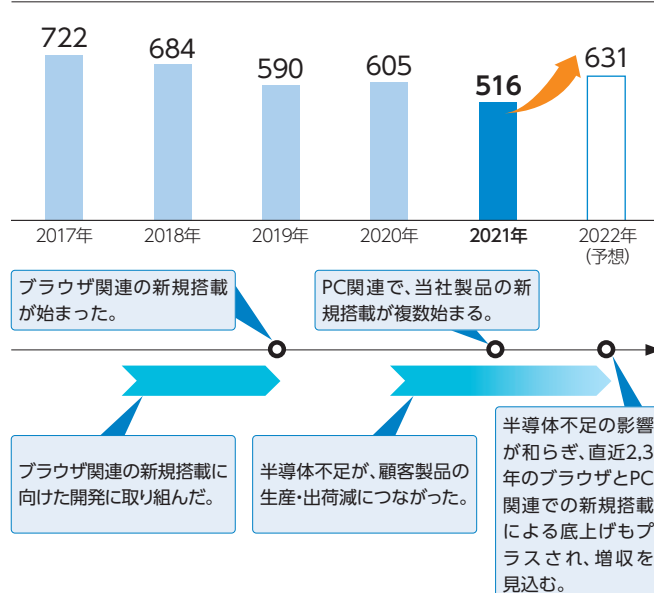
A. 当社グループの売上のうち約7割を占めるロイヤリティ収入は、2020年度には減少傾向に歯止めがかかり、2021年度には回復が持続すると期待しておりましたが、半導体不足の影響で、顧客製品の生産・出荷が落ち込み、2021年度は大きな減収となりました。

ロイヤリティ収入の回復の鍵を握る「パソコン・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業」では、直近2、3年でのブラウザとPC関連での当社製品の新規搭載が実現し、ライセンス製品の投入や機能強化による製品力の向上が進んでおります。

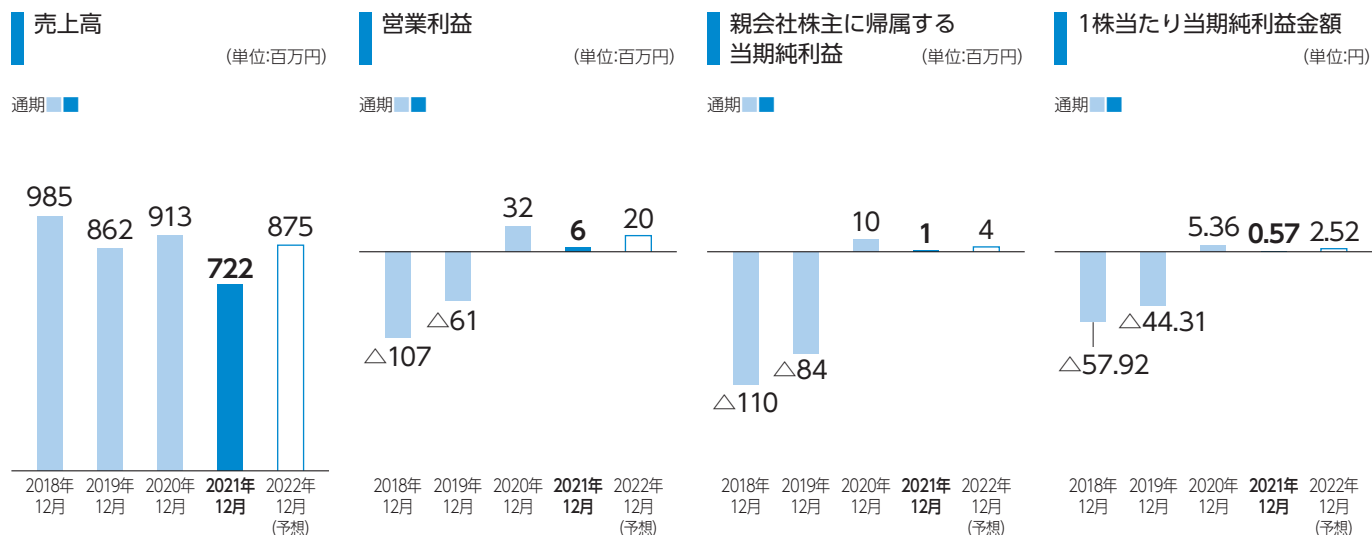
この成果に加え、半導体不足が年後半には緩和されると見込んでいる2022年度は114百万円の増収を計画しております。

また、2023年度以降を見据え、2022年度には、デバイス間データ転送分野での新技术・製品開発に取り組み、関連製品の展開を行ってまいります。

ロイヤリティ収入の推移 (単位:百万円)



連結業績ハイライト



株主インフォメーション

会社の概要 (2021年12月31日現在)

社名	株式会社sMedio
本社所在地	〒104-0033 東京都中央区新川2-3-1 セントラルスクエア8階
設立	2007年3月16日
資本金	5億1,188万円
従業員数	53名 (役員含まず、子会社従業員含む)
役員	代表取締役社長 岩本 定則 取締役 北埜 弘剛 取締役 (独立社外) 落合 洋司 取締役 (独立社外) 林 志中 監査役 (常勤) (独立社外) 江藤 祐一郎 監査役 渡邊 雅文 監査役 (独立社外) 本郷 喜千
関連子会社等	sMedio Technology (Shanghai) Inc. (中国) sMedio America Inc. (米国) タオソフトウェア株式会社

株式の状況 (2021年12月31日現在)

発行可能株式総数	6,000,000株
発行済株式の総数	2,042,521株 (うち自己株式 106,892株)
株主数	1,961名

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
配当支払株主確定日	12月31日 (期末配当) 6月30日 (中間配当)
1単元の株式数	100株
証券コード	3913
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告掲載方法	電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する方法により行う。

IRカレンダー

2022年	4月	
	5月	● 第1四半期決算発表
	6月	
	7月	
	8月	● 第2四半期決算発表
2023年	9月	
	10月	
	11月	● 第3四半期決算発表
	12月	
	1月	
2023年	2月	● 決算発表
	3月	● 定時株主総会